

施策番号 3-1-3	施策名 防犯対策と交通安全の推進	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり		
		政策名	安全安心に暮らせる生活環境づくり		
主管課 総務課	施策関係課	課長名	安田敦史	内線	211

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
地域が一体となった防犯体制・交通事故防止に向けた取組みをすすめます。		町民 町内会	・犯罪事件発生抑制 ・交通事故の未然防止					町民の日常生活の安全安心が確保される	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 芽室町内で発生する犯罪件数(H25-30平均)	帯広警察署調べ	件	110	86件	78件	99件以下	99件以下		
② 芽室町内で発生する交通事故件数(H25-30平均)	帯広警察署調べ	件	51	19件	18件	45件以下	45件以下		
③ 安全安心情報配信登録者数	総務課調べ	件	953	1586件	1712件	4000件	4000件		
成果指標設定の考え方	① 前期実施計画平均値(H19-23)の10%減である99件を目標値に設定したもの。 ② 前期実施計画平均値(H19-23)の10%減である45件を目標値に設定したもの。 ③ 計画策定当時の世帯数(7,677)の約50%である4,000件を目標値に設定したもの。								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	14,911	15,743
人工数(業務量)	1.0913	0.8000

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	関係機関との連携により前年度比較で成果が向上した。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①・② 関係機関との継続かつ恒常的な連携により、目標値達成は可能と思われる。 ③ 安全安心情報(安心メール)配信登録者については、防犯情報だけではなく、災害及び気象情報等の発信機能であることも周知し、登録者の増加を図ることで目標値達成は可能と思われる。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	交通安全対策事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	防犯対策事業		
	少年補導員会運営事業		
	子どもの安全・安心確保対策事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪件数の減少は、関係機関・団体と行政との連携により実現できた成果である。 ・ 交通事故件数は、前年度対比1件減であり、この3年間は横ばい状況でいっそうの取組みが求められるが、町内の各職場や団体から参加し実施している「旗の波作戦」や学校や老人クラブで実施している「交通安全教室」などを継続し、さらなる成果を目指すものである。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 防犯、交通安全対策は、行政や関係機関・団体、地域が強固に連携し裾野を広げた地道な活動が最も重要である。</p> <p>《今後の予測》 不審者対策、詐欺対策など、年々、巧妙化・凶悪化する中で、日常の住民の気づきによる通報、地域や企業・事業所の役割はますます重要となる。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全指導員の人材確保対策の工夫 ・ 道路標識等の新設 ・ 改造自動車の取り締まり強化

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たにに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ● 課題① 関係団体との地道な連携活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の安定的な成果維持を目指し、関係機関・団体との地道な連携活動を継続する。 ● 課題② 住民への地道な啓発活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの住民が、日ごろから防犯について当事者意識を持つよう広報を継続する。 ・ 異変や異状に気付いた都度、町や警察に通報する行為が未然防止の最大的手段であることを強化しながら広報する。 ● 課題③ 高齢化する住民(ボランティア)活動の役割再考 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動者(少年補導員等)の高齢化と、事件の凶悪化などを踏まえて、活動内容を密に協議する必要性が増している。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	●防犯意識の高まりから、成果指標も向上傾向にあり、施策として前進していると言える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●安全・安心情報配信登録者数の増加に伴う伝達速度の低下も念頭に、情報伝達手法の検討を行ってほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	地道な取り組みにより指標の上昇も見られ、庁内評価と同じく施策は前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	●交通安全について、ハード面の整備が難しい場合でも旗の設置など効果の見られるものもあるため、状況に応じて取り組みを進めてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					